

学校教育目標	かしこく(進んで学ぶ子) やさしく(思いやりのある子) たくましく(元気でねばり強い子)
目指す学校像	すべての子どもたちの居場所となる地域とともにある学校~教職員、保護者、地域が連携・協力して子どもたちを支える学校~
重点目標	1 「学びの自律化」に向けたタブレット型端末の活用による授業改善 2 「すべての子どもの居場所となる学校」としての教育支援・相談体制の充実 3 「開かれた教育課程」を明確に示した学校づくりの推進 4 「花と安全・安心」学校づくりを目指す施設・設備の活用と整備 5 「学校の組織力」と「教職員の指導力」の向上

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価				実施日令和8年2月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	現状 ○全国学力・学習状況調査では、学力に関する調査の正答率が、すべての教科で、全国平均・市平均を下回っている。 ○学習に関する意欲が見られない児童もあり、また、家庭教育の協力が十分ではない家庭もある。 課題 ○基礎的な知識・技能を十分に定着させる必要がある。 ○スクールダッシュボードを活用し、個別最適な指導や支援を工夫する必要がある。	「真の学力」の育成のための主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	①「学びの指標」に基づく、学習者主体の授業の実践 ②教科の専科制を生かした質の高い授業の実践 ③児童の主体性を育む学習課題設定の工夫	①「学びの指標」における「主体的な学び」に関する項目の数値が学校平均3.30を上回ったか。 ②③学校評価アンケートの教職員の関連項目の肯定的回答割合が90%を上回ったか。	①「学びの指標」の「主体的な学び」に関する数値は3.23であった。 ②③教職員の関連項目の肯定的回答割合は88%であった。	B	①「学びの指標」に基づく授業改善は引き続き、意識を高めて実践していく。 ②③教科の専門性を生かした授業改善や主体的な学習者の育成には、課題が見られる。家庭学習を含めて取組を充実していく。	・数値に基づいた現状分析は重要なことだと感じる。学力向上に向けてさらに取り組んでいたきたい。 ・家庭教育の実態は中学生になっても課題であるとのことであり、地域として協力できることは取り組んでいく。 ・ICTを有効に活用するとともに、学習の基礎・基本となる知識や技能確実な定着も引き続き図っていく必要がある。	
		エビデンスに基づく基礎・基本の知識・技能の定着を目指す指導方法の工夫改善	①「学力向上カウンセリング訪問」を生かした分析的手法に基づく授業改善 ②ICTを活用した一人1研究の充実 ③家庭学習の啓発 ④指導と評価の一体化を重視したルーブリックの工夫・活用	①「学びの指標」における「ICT活用」に関する項目の数値が学校平均3.14を上回ったか。 ②④学校評価アンケートの教職員の関連項目の肯定的回答割合が90%を上回ったか。 ③学校だより等を活用して家庭への啓発を学期ごとに行ったか。	①「学びの指標」ICTの活用は3.10であった。 ②④教職員の肯定的回答割合は88%であった。 ③話題として、2回(9・11月)啓発を行った。3月号でも行う予定である。	B	①調査結果等の向上はみられている。 カリキュラム・マネジメントと合わせて指導方法の工夫改善に取り組む。 ②④学校課題研究を生かした授業改善に継続して取り組んでいく。 ③家庭学習の定着を図る取組を保護者の協力のもと進めていく。		
2	現状 ○「いじめ見逃し0」を目指して、いじめの積極的認知を進める。令和6年度いじめの認知件数23件、年度を超えた見守り9件であった。 ○さいたま市学習状況調査生活習慣に関する調査の「学校に行くのが楽しい」「困りごとや不安があるとき、だれかに相談しようと思う」の肯定的回答割合が市平均を下回っている。 課題 ○Sola る一むの活用に関する周知が必要である。 ○Sola る一む運営にかかわる人材を確保する必要がある。	「自己肯定感」「自己指導能力」を育む生徒指導・教育相談体制の充実	①児童アンケート、面談記録、生徒指導上の対応記録等の適切な保存・活用 ②生徒指導、教育相談部会の定期開催 ③必要に応じた校内支援委員会の実施	①ICTやファイル等を活用し、必要な情報を適切に管理・活用することができたか。 ②③定期的開催、必要に応じた適切な開催を実践することができたか。	①おはようメーターや授業評価を生かした、児童の実態把握を適切に進めることができた。 ②③月1回の定期開催は確実に実施した。重大事案等の発生はなかった。	A	①児童の実態把握にデジタルコンテンツを活用し、意図的・継続的にその変容をみていく。 ②③情報共有を図り、適切な情報活用に努める。	・児童の居場所づくりが確実な成果を得ていることはよいことである。 ・多様な学びに適應できる指導者を探すことは困難であると感じる。地域の教育力を生かすために協力できることはしていく。	
		Sola る一むの活用に関する啓発と環境整備	①必要とする児童・保護者へのSola る一むに関する情報提供 ②Sola る一む環境整備 ③Sola る一む運営に関するルール明確化と対応人材の確保	①学校だより等を通じてSola る一むとその活用に関する情報提供を行うことができたか。 ②予算を活用し環境整備を行うことができたか。 ③必要な人材確保に関する取組を進めることができたか。	①2学期以降Sola る一むの安定的な開設が実現できた。 ②パーテーションの設置等環境整備ができた。 ③教職員の協力のもと、児童の居場所に教職員の適切な配置ができた。	A	①2学期当初から、ニーズに応じたSola る一むの安定的な運営に努める。 ③専門職(S・C・S・S・W)との連携を図り、教職員の負担感の軽減に取り組む。		
3	現状 ○学校運営協議会に地区自治会会長の方々の協力を得られることができてきた。 ○学校・地域・保護者の協働的な活動が十分ではない。 ○現状に即したPTA活動の在り方を模索している。 課題 ○学校運営協議会に児童の参画が必要である。 ○学校行事等における保護者の組織的協力が必要である。 ○学校・地域・保護者・児童による協働活動が必要である。	児童の自律に向けた取組と学校運営協議会に基づく協働体制の充実	①地域代表である委員長を中心に学校の現状に応じた熟議を実施 ②熟議に基づく協働的な活動を具体的に実践 ③主に挨拶やいじめに関する課題について児童が参画して協議会を実施	①②熟議を通して協働的な活動を実践することができたか。 ③学校運営協議会に児童が参画することができたか。	①②熟議を通して、様々な立場でのご意見をうかがうことができた。 ③第2回学校運営協議会に児童会児童が参画し、児童による「いじめ対策」について説明を行うとともに、ご意見を頂戴することができた。	A	①②地域自治会の皆様の協力を継続的なものとして、一層確立する。 ③児童による学校運営協議会への参画を意図的・意図的計画的に進めるとともに、その内容を充実させる。	・地域自治会として学校運営協議会に参画し、学校の取組を知ることができた。 ・学校における教育と、公民館における教育をうまく連携させていくことが大切である。 ・PTAとしての活動をどのようにしていくかを、当事者である保護者とよく確認して進めていくことが大切である。	
		意図的・計画的な情報発信とPTA本部役員との連携の強化	①学校だよりや学校HPを活用して取組について周知 ②SSNとの連携の充実 ③実態に即したPTA活動について協力を得られる取組の検討	①学校だよりや学校HPを通して、学校運営協議会の活動について周知することができたか。 ②③SSNとの連携を通して、実態に即したPTA活動や保護者の協力の在り方について検討することができたか。	①学校だよりを通して学校運営協議会の取組(7・3月)を紹介し、またその内容を学校HPに掲載した。 ②③PTA本部役員との協力を得て、地域行事に係る情報を把握し、地域や保護者の方々の協力が得られた。	B	①学校運営協議会の活動とその意義について、継続的にお知らせし、円滑な学校運営に努める。 ②③様々な学校行事や地域行事について必要な情報を適切にお知らせし、更なる協力をお願いする。		
4	現状 ○校舎の経年劣化が見られ、継続的に補修を必要とする箇所が複数見られる。 ○地域の避難所としての機能を十分に果たすことができない可能性が高い。 課題 ○学校配当予算を大幅に上回る抜本的な補修が必要である。 ○学校配当予算の意図的計画的な執行を適正に行う必要がある。 ○毎月の安全点検に基づく対処療法的な対応を適切に行う必要がある。	定期的な安全点検の確実な実施と迅速な対応の徹底	①定期的な安全点検の確実な実施(毎月10日) ②危険・補修必要箇所等の迅速な対応の徹底 ③必要な予算措置及び補修等の年度内執行の徹底	①学校評価アンケートの保護者の関連する項目の肯定的回答割合が97%を上回ったか。(「よくわからない」は除外) ②③危険・補修箇所に対する迅速対応を徹底し、予算活用が年度内に完了したか。	①「よくわからない」と回答した保護者を除いた方の、肯定的な回答割合は96%であった。 ②③迅速な対応を徹底し、修繕に係る予算活用は年度内に完了する予定である。	B	①②③「よくわからない」と回答される方の割合を少なくするための情報提供を充実させる。また、校地敷地内の環境整備に「安全第一」を共通認識の基本として、教職員全員で取り組む。	・情報の受け手の立場に立った情報発信を工夫してほしい。 ・施設・設備の安全管理については、引き続き細心の注意を払って取り組んでほしい。 ・校庭改修等、教育委員会やさいたま市の施策にあわせてよりよくなっていることはよいことである。	
		教育委員会との連携と適切な情報発信に基づく危険回避	①定期点検と合わせた施設等の巡回強化 ②校庭改修工事施工に伴う危険予知と安全確保の徹底	①安全点検事項以外に関する点検作業を毎週実施し、情報共有することができたか。 ②校庭改修工事に関する情報提供を関係機関等に適切に行うことができたか。	①毎月の安全点検に加え、不定期での安全点検を随時実施して、施設・設備を起因とする事故防止を徹底した。 ②適切な情報提供により安全に改修工事を実施することができた。	A	①②形式的な点検となることのないように、常に「安全第一」であるかを意識した取組を徹底する。		
5	現状 ○教職経験5年以内の教員割合が約5割である。 ○教科の専門性が高い教員が十分ではない。 ○ICTを活用した授業改善に関して、学級間、学年間での共通理解が十分ではない。 課題 ○「教師が教える授業」から「学習者が主体的に学ぶ授業」への転換が必要である。 ○学校課題研究のさらなる推進が必要である。 ○外部指導者等を活用した、より専門性を生かした指導の充実を図る必要がある。	学校課題研究、研修奨励による指導力向上のための取組の充実	①発達段階に応じたICT活用の充実 ②一人1研究の学校課題研究の実践 ③長期休業中における研修受講	①②「学びの指標」におけるICT活用が3.14を上回ったか。 ③人事評価面談を通じた研修奨励に基づき教職員が一人一つ以上研修受講したか。	①②「学びの指標」ICTの活用は3.10であった。 ③研修奨励を行うことで、教職員が長期休業中の研修機会を生かし、ほぼ全員一人1回以上の研修に参加した。	B	①②実態に応じた柔軟な指導方法の確立に資する学校課題研修を進める。 ③研修奨励を充実させ受講を促すとともに、選択と集中を基本に働き方改革を推進する。	・先生方にとっても働きやすい、働き甲斐のある職場としての学校になってほしい。 ・子どもたちを取り巻くICTやSNS環境について、もっと保護者も知ることが大切である。 ・保護者の理解と協力をさらに得られるように、適切な情報発信をしていくとよい。	
		講師や外部指導者招聘による取組の指導や専門的内容に基づく学習指導の充実	①リーディングDX校(協力校)としての外部講師の招聘 ②企業が提供する専門性の高い教育資源の活用	①外部講師を招聘した授業研究会及び研究協議会を実践することができたか。 ②専門性の高い教育資源を活用した授業実践を行うことができたか。	①山梨大学准教授や教育研究所指導主事を招聘し、校内授業研究会を開催した。 ②6年授業では、消防音楽隊を招聘し、防災・防火に係る意識の啓発を図り、専門的な音楽演奏を視聴した。	A	①②外部講師や専門性の高い教育資源の活用を、児童の実態に合わせてさらに充実させていく。		

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

